国立大学法人
滋賀医科大学

情報提供

2024年7月31日

レストレスレッグス症候群(むずむず脚症候群)患者の約3割が抑うつ状態を合併する― 世界初の系統的レビュー ―【記者説明会のお知らせ】

滋賀医科大学医学部医学科第５学年の宮口凜、精神医学講座の研究グループ（増田史助教、角幸頼客員助教、尾関祐二教授、角谷寛特任教授ら）が、レストレスレッグス症候群(または むずむず脚症候群, Restless legs syndrome、以下RLS)における抑うつ状態の合併率に関する系統的レビューを報告しました。

本研究では、2,039人の患者（男性727人、35.7%、平均年齢50.8±14.8歳）を含む24件の研究を分析し、RLS患者の約30%で抑うつ状態を合併することが示されました。

RLSにおける抑うつ状態の有病率に関する系統的レビューは、世界初の試みです。本研究成果をまとめた論文は、睡眠医学に関する医学雑誌である Sleep Medicine Reviews（ジャーナルインパクトファクター 11.2）に掲載され、2024年7月18日に公開されました。(https://doi.org/10.1016/j.smrv.2024.101975)

つきましては、下記のとおり**記者説明会をオンライン開催し、詳細について説明を行いますの**で、ご参加いただき、紙面等でご紹介いただければ幸いです。

―記者説明会について―

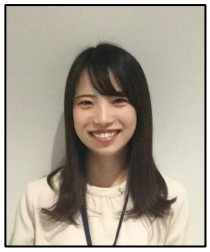
日　時：2024年８月６日（火）10：00～

会　場：オンライン開催（Zoomを使用）

申　込：本学広報係（hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp）に事前にご連絡ください。

招待URLをお送りいたします。【申込期限：2024年８月５日(月) 15：00まで】

発表者：



医学科第５学年　宮口 凜

助教　増田 史

客員助教　角 幸頼

※レストレスレッグス症候群(RLS)とは

レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群）は、主に下肢の不快感と、動かしたくなる衝動を特徴とする疾患です。

レストレスレッグス症候群は、小児から高齢者まで幅広く見られる疾患であり、全世界で有病率は7%とされ、女性は男性より2倍多く発症すると言われています。下肢の不快感は夕方から夜にかけて悪化する傾向があり、睡眠が妨げられる患者が多くいます。

POINT

・レストレスレッグス症候群（RLS）は、睡眠が障害される点で苦痛が大きく、また神経系の異常を共有する点で、近年、うつ病との関係が注目されているが、**RLS患者における抑うつ状態の合併率については明らかにされていなかった**。

・**RLS患者における抑うつ状態の合併率に関する系統的レビュー及びメタ分析は、世界初の試み**である。

・RLS患者では**うつ病または抑うつ状態の有病率は約30%と高いことが本研究によって示された。**

・レストレスレッグス症候群は有病率の高い疾患であり、抑うつ状態を合併する患者も多いことが示された。エビデンスレベルの高い手法で、レストレスレッグス症候群の潜在的な治療ニーズを明らかにした点で、インパクトがある。

研究の背景

レストレスレッグス症候群（Restless legs syndrome、以下RLS）は、主に下肢の不快感と動かしたくなる衝動を特徴とする疾患です。症状は安静時（特に夕方から夜）に悪化し、動くことで緩和されます。RLSの有病率は約7%であり、女性は男性より2倍多く発症し、全年齢にみられる疾患です。

近年、ドパミン神経系の共通の異常があるという点で、うつ病との関係が注目されています。うつ病の有病率は一般的には約5%ですが、RLS患者では約2割～7割と報告されており、その合併率は明らかにされていませんでした。

そこで、滋賀医科大学医学部医学科5年生の宮口凜、精神医学講座の研究グループ（増田史助教、角幸頼客員助教、尾関祐二教授、角谷寛特任教授ら）は、系統的レビューと呼ばれる手法を用いて、RLSにおけるうつ病または抑うつ状態の有病率を調査しました。

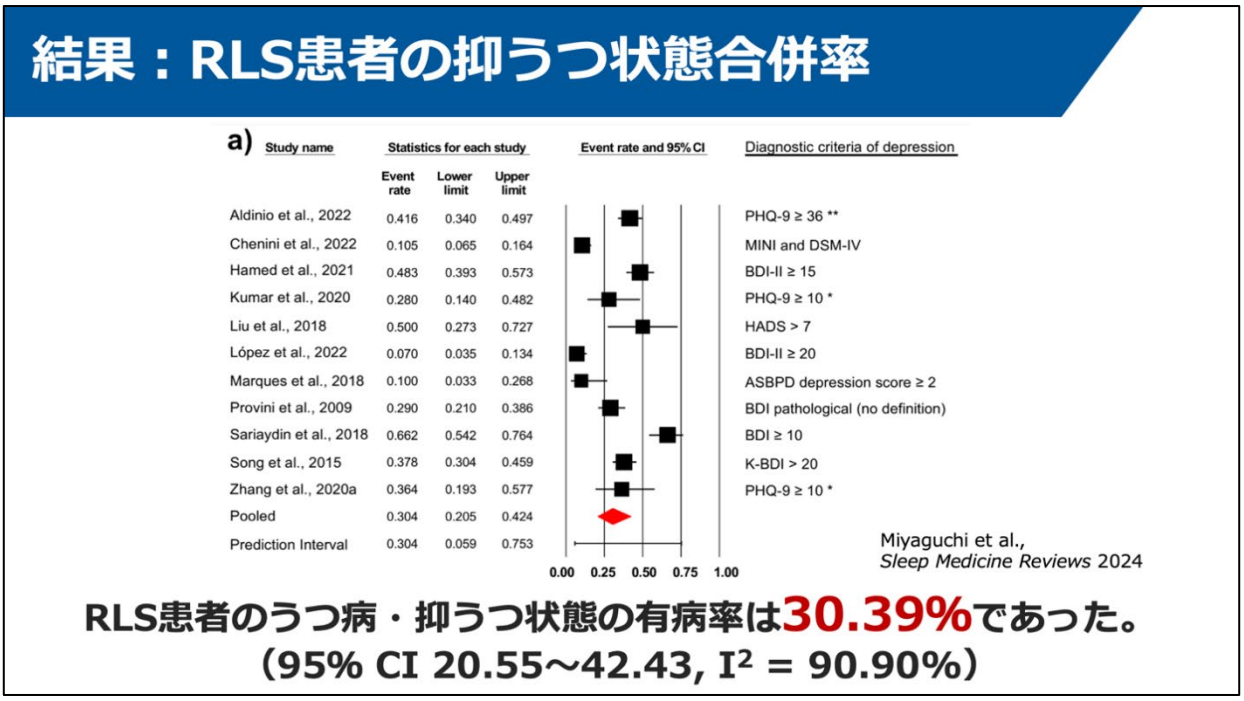
研究の詳細

本系統的レビューとメタアナリシスでは、RLS患者におけるうつ病または抑うつ状態の有病率について検討しました。

2022年11月20日にオンラインデータベース（MEDLINE、CENTRAL、EMBASE、ClinicalTrials.gov）を用いて、「RLSとうつ病」に関する系統的検索をしました。ランダム効果モデルを用いてうつ病及び抑うつ状態の有病率や抗うつ薬の利用割合についてメタ解析を行いました。

3919件の研究がヒットし、24件の研究を解析対象としました。研究には2039人のRLS患者（男性727人、35.7%、平均年齢50.8±14.8歳）を含まれ、抑うつ状態の合併率は30.39%（95% CI: 20.55-42.43%）でした（図1）。

本研究により、RLS患者における抑うつ状態の合併率が約3割と高いことが明らかとなりました。



日本睡眠学会第48回定期学術集会 発表スライドより（宮口凜ら）

結論

RLS患者の抑うつ状態合併率は約30%と高いことが示されました。本研究では、系統的レビューというエビデンスレベルの高い研究手法を用いた点において、研究の新規性および優位性があります。RLS患者におけるうつ病または抑うつ状態の有病率に関する系統的レビューは、初の試みです。結果より、RLS患者の約3人に1人がうつ病・抑うつ状態を経験していることが判明しました。RLS患者において抑うつ状態の合併率が高い背景には、RLSに伴う不眠の影響や、うつ病との共通する神経系の異常(ドパミン神経系の異常)が背景にあるのではないかと、研究グループは考察しています。今後、RLS患者が抑うつ状態を合併するプロセスや、適切な治療法の検討が必要と考えます。

日本睡眠学会第48回定期学術集会 発表スライドより（宮口凜ら）

研究費

本研究は、日本学術振興会 科学研究費助成事業の助成を受けて実施されました。
（課題番号：JSPS KAKENHI Grant Number 21K15745 and 21H03851）

論文情報

著　　者：Rin Miyaguchi, Fumi Masuda, Yukiyoshi Sumi, Hiroshi Kadotani, Yuji Ozeki, Masahiro Banno, Yasutaka Kuniyoshi

タイトル：Prevalence of depression or depressive state in patients with restless legs syndrome: A systematic review and meta-analysis

掲 載 誌：Sleep Medicine Reviews, Volume 77, 2024
(https://doi.org/10.1016/j.smrv.2024.101975)

≪研究内容の詳細に関するお問い合せ先≫
滋賀医科大学　精神医学講座　医局
TEL：077-548-2291
e-mail：elasticvisco@gmail.com（角 客員助教）

≪プレスリリース発信元≫
滋賀医科大学　総務企画課　広報係
TEL：077-548-2012（担当：上嶋）
e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp